

カトリック

広島教区報

クリスマスと新年にあたって

カトリック広島司教区長

三末 篤實 司教

クリスマスのお喜びを申しあげます

待降節を通して近い準備をして参りましたが、主の降誕祭を迎え皆様には



大いなる喜びと神の祝福が与えられたことと思えます。クリスマスは神の御子が人類の救いのために人間性をとられ、この世にお生まれになられたことをよるこびお祝いし、感謝し、神のお恵みを分かちあう日でもあります。クリスマスのお恵みがすべての人にゆきわたりますように希っています。

新年のお喜びを申しあげます

旧年中は沢山のお祈り、ご支援、ご協力を賜り心から感謝申しあげます。すぎ去った年の中には色

No. 75

カトリック
広島司教区

発行責任者
広 報 担 当
服部大介神父

広島市中区鞆町4-42
広島司教館内
TEL (082) 221-6017

んな出来ごとがありました。楽しかったこと、うれしかったこと幸せだったこと等神のお恵みの中で大いなる喜びの日をもつことができました。しかし、ある方にとっては反対に大きな犠牲をささげられた方もあったことでしょう。これらすべては神のみ摂理の中であつたことを思い、神におささげして新たな希望のもとに進んで参りたいと思えます。キリストの道は十字架の道です。しかし、最後には永遠の救いが保証されていることを考え、新年にも神のお恵みとご配慮の中で世界平和の実現とみんなの幸せのために最善を尽して参りたいと思います。

ペトロ岐部と一八七名殉教者の列福を心からお喜び申しあげます

去る二〇〇八年十一月二十四日、日本では初めて、

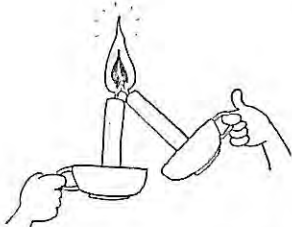


四〇〇年越しの一八八名の

殉教者が聖人に次ぐ福者の位に、ベネディクト一六世教皇の「使徒的權威」によって加えられました。くもり空の下でも、国内外から集まった約三万人の人々が、大いなる喜びと感謝のうちに式典に参加し、殉教者をたたえミサをささげました。広島教区からも五名の殉教者が福者に加えられましたがこれは広島教区にとつても大きな喜びであり、お恵みです。神に感謝をおささげいたしましょう。

山口地区からは萩のメルキオール熊谷豊前守元直と山口のダミアン。広島地区からはフランシスコ遠山甚太郎とマチアス庄原市左衛

門、ヨアキム九郎衛門の三名が福者の位にあげられました。今回の列福式は、広島教区にとっては信仰の大きな支えとなり信仰生活に勇気を与えてくれるお恵みとなりました。私たちは神に感謝をおささげし殉教者の取り次ぎを願いながら主のみくいの完成のために最善を尽して参りましょう。皆様のうえに神の祝福をお祈りいたしつづ!



ペトロ岐部と187殉教者 列福式

十一月二十四日(月)、「ペトロ岐部と百八十七殉教者」の列福式が、国内外から約三万人が参列し、長崎市の県営ビッグNスタジアムで執り行われました。

ミサの「列福の儀」で、

百八十八人の殉教者を「使徒的権威によって、福者の列に加え

ます」と教皇ベネディクト十六世の書簡を、教皇代理ジョゼ・

サライバ・マルティンス枢機卿が朗読、百八十

八人の新しい福者の誕生が宣言され、記念日は

七月一日であると発表されました。

一九八一年来

日した前教皇ヨハネ・パウロ二世が「日本は殉

教者の国であり、彼らを顕彰

するように」促されたのをきっかけに、日本の

司教団が初めて列福運動を主導し、四半世紀にわたる祈りと努力が結実し、国内で最初の列福式となりました。

百八十八人は、一六〇三年から一六三九年にかけて、徳川幕府のキリシタン禁制の時代に、過酷な迫害を耐え忍び命をかけて信仰を守り抜いた人々です。

今回の列福運動のポイントは、百八十八人をすべて日本人から選び、日本の教会全体を網羅し、そして信徒を重点的にとりあげたこととす。

キリシタン時代の日本では、氏名、日時、場所が歴史的に確認できる殉教者だけでも五千五百人を下るとは無いといわれます。

百八十八人は、選ばれなかった他のすべての殉教者の代表であり、現在十六教



小雨の中の司祭団



第一朗読を行う松田俊明さん

区ある日本のカトリック教会の九教区から選ばれています。

百八十八人は四人の司祭と一人の修道者以外、百八十三人は信徒です。信徒

は、さまざまな階級の人々で、子どもや女性、一家で殉教した姿がめだちます。そして、障がい者も含まれています。

広島教区の五人の殉教者も福者の位にあげられました。

一、メルキオール熊谷豊前守元直(一六〇五年八月十六日歿で殉教)

二、ダミアン(一六〇五年八月十九日山口で殉教)

三、フランシスコ遠山甚太郎(一六二四年二月十六日

広島で殉教)

四、マチアス庄原市左衛門(一六二四年二月十七日広島で殉教)

五、ヨアキム九郎右衛門(一六二四年三月八日広島で殉教)

列福式のミサの中で、熊谷元直の子孫の一人熊谷茂實さん(広島・祇園教会)が「共同祈願」を唱えました。また、ミサの「第一朗

読」は、視覚障がい者の松田俊昭さん(山口・岩国教会)が力強く点訳聖書を読みあげました。これは、山口の殉教者盲人ダミアンに因んで、列福式実行委員会に願って実現したことです。

閉祭に際して、列聖列福特別委員会委員長の溝部脩高松司教が謝辞を述べました。共に準備をし、十一月十七日に帰天した結城了悟神父の名前が挙げられると、会場から自然と拍手が

わき起こったのが印象的でした。

白柳誠一枢機卿は、説教を結ぶことばとして、「殉教者は、すべての人が大切にされ、尊敬され、人間らしく生きられる世界となるよう祈り、活動することを求

めているにちがいありません。さあ、皆さん、怖れずに歩み、一緒になつて進みましょう。怖れるな、怖れるなと神さまがそして殉教者が呼びかけています。皆さん、怖れるな」と語りました(次頁以降に全文掲載)。

日本の教会は殉教者の流した血の上に建てられた教会であることを「共通の記憶」として、神さまが広島教区に望んでおられる「平和の使徒」の道へ、新しい一歩を踏み出しましょう。



共同祈願を行う熊谷茂實さん

お知らせ

二〇〇八年十二月二十八日(日)十時、NHK教育テレビで、E-TV特集「殉教者たちのメッセー」ペトロ岐部と百八十七人の列福式(仮)が放映されます。

【列福式ミサ説教】

皆さん、怖れずに歩み、
一緒になって進みましょう。

白柳 誠一 枢機卿



させることからお話を始めたいと思います。

カトリック教会では、伝統的に、信仰の真理を証しするために、すなわち、イエス・キリストの恵み、神様の愛を忠実に証明するために命を捧げた人を指して、殉教者と呼んでいます。

これはイエス・キリストに倣う最高の生き方であり、キリストの証しと救いの業への最高の参与として捉えられています。

新約聖書の終わりの書、ヨハネによる「黙示録」は「忠実で真実な証人」（黙示録三章十四）であるキリストに倣って教会と世界に血の証をした殉教者が受け

皆さん、私達はいま、「ペトロ岐部神父と一八七人日本殉教者」が列福され、大きな喜びと深い感動を味わっています。ところで私たちは殉教者、殉教者と、いつも簡単に呼んでいます。が、一体、どのような人を殉教者と呼ぶのか、まず、その言葉の意味をはっきり

た試練と栄光を讃えています。

教会の歴史をみますと、初代教会から現在に至るまで、世界の各地にキリストに倣ってこのように、血を流して神様を証した殉教者は枚挙に暇がありません。

日本における、キリスト教の歴史は一五四九年聖フランシスコ・ザビエルの来日によって始まりました。彼らは風俗、習慣、言語などの違いにより大きな困難に遭遇しましたが、宣教師たちの熱意と日本人信徒の協力により、困難の中にあっても、いちじは約三十万人の信徒が数えられたとい



われています。当時の日本社会は大名たちが群雄割拠していた時代であり、宣教師たちが自由に働けるか否かは、その地の権力者である大名たちによって決められていました。快く受け入れた大名、条件づきで受け入れた大名、拒絶した大名などおりました。フランシスコ・ザビエルが当時の都、京都を訪れ天皇と佛教の最高学府比叡山に敬意を表し、日本全国への宣教許可を求めするために、面会を願ったところ、その面会は断られ、失望のうちに京を離れたことは、よく知られていることです。

信長の後を継いだ秀吉の時代にはいると日本社会がほぼ統一に向かいはじめ、キリスト教に対する態度が変わってきました。

一五八七年秀吉は宣教師たちの追放を命ずる「伴天連追放令」を出し、地域的に温度差はありましたが、各地で迫害が始まりました。まずキリスト教を述べ伝える宣教師とその身近な協力者が迫害の対象となりましたが、次第に地域も対



象も広げられ、秀吉の追放令が出て、十年目の一五九七年にフランシスコ会のペトロ・パプチスタ神父、イエズス会のパウロ三木神父をはじめとする聖職者九人と信徒十七人の所謂二十六聖人の殉教がありました。徳川の時代にはいり、家康、秀忠、家光と代を重ねるに従い迫害は熾烈を極め、殉教者の数が増大していきました。

キリシタン研究家でもある溝部司教によりますと名前、殉教の日時（にちじ）、場所などが正確にわかっていない殉教者だけでも五千五百人をくだらないそうです。また確かに殉教したけれど、名前ははっきりのわ

からないものは約二万人に及ぶといわれています。(これらのことは当時の唯一の司教セルケイラを始め宣教師たちのローマ教皇、また修道会本部に送られた報告書、日本の各地に残されている歴史資料(古文書)などによって明らかにされています。因みに外国に送る手紙、報告書などは当時の状況下、確実に届くように、一度に三部作成され、異なる舟で送られたため、ローマの教皇庁資料室には同じ文書が二通あるのも、あるそうです)。

これらの殉教者のうちすでに二六人の聖殉教者、二〇五殉教者、さらに十六人のドミニコ会関係者(司祭、修道者、第三会員、信徒)がローマ教皇様より公に福者として宣言されています。

今日新たにペトロ岐部神父ほか一八七人の殉教者が福者として宣言されました。今、ひとりずつ紹介することはできませんので、今回列福された福者に共通する特徴について、お話し

たします。

一、今回は日本各地の殉教者で、時代を超えて各地で尊敬されてきた人たちです。北から申しますと米沢の五三人、江戸二人(但しそのうちのひとり、ペトロ岐部神父は大分県国東半島の出身で、江戸で殉教した人です)そのほか京都の五二人、大阪、広島、山口、萩、小倉、大分、熊本、有馬、生月、島原、雲仙、長崎西坂、天草、八代、薩摩(鹿児島)で殉教した方々です。

二、この百八十八人殉教者は、全員日本人で、信徒百八十三人、とその信徒たちに徹底的に仕えた代表的な四人の司祭、ひとりの修道者です。

三、また性別、年齢、職業などをあげますと。男性一二十一人、女性六十七人、年齢では最高年齢者は米沢の武士、ルイス甚右衛門の八十才から一才の子供まで含まれて言います。なんと一歳から四歳までの子供が二十九人もいたのです。そのほかの人は、殆ど働き盛



りの人でした。職業としては上級武士、下級武士とその家来、一般庶民、農民などとその妻、子供、奉公人のような方々で、健康人だけではなく、身体障害者二人も含まれていました。

このたびの福者のなかで目立つことは、一家揃っての殉教です、主人、妻、子供たちというケースが大変多いことです。これは司祭たちによる熱心な信徒養成、また、家族一体となつての信仰の実践、近辺の信徒の家庭が一緒になつて小さな教会の役割を果たしたこと、特に迫害下にあつては「家庭教会」として、信徒たちが役割分担して子供たちに教理を教えたり、一

緒に折つたりして信仰を深め、神様の特別な恵みで殉教をも受け入れることができたのでした。同時に忘れることのできないのは、司祭たちが決死の覚悟で頻繁に密かに信徒の家庭を訪れ、ミサ、赦しの秘跡を授け、励まし続けたことです。一家そろって殉教した家族は、

例えば、京都のヨハネ橋本、妻テクラ、五人の子供たち。

八代のシモン竹田、妻アグネス、四人の子供、シモン竹田の母。

熊本の小笠原玄也、妻マリア、息子六人、娘三人奉公人四人。

もう一つの際立っていることは日本の迫害の歴史が大変長期にわたつたこと、またその残酷さ、弾圧の徹底さなど、世界に類のないものがありました。

このたび列福された殉教者は一六〇三年の熊本、八代の殉教から、一六三九年江戸の殉教までの三十六年間に殉教した方々の一部です。しかし徹底的弾圧、キリスト教の壊滅を期して、

踏み絵を踏ませて信仰を調べる絵踏み、五人組制度による信徒の詮索、懸賞金をかけての捕獲、キリシタンの禁札、役人のまえで毎年自分の宗教を申告する制度、宗門改め、などによる弾圧は、大変長く続けられました。宗門改めは鎖国が始まってからも二百二十二年間、一八六四年まで、また禁札は明治時代まで続けられました。

このような過酷な条件のなかでも代々家庭での信仰が受け継がれ、一八六五年三月一七日、迫害下二百五十年七代にわたつて信仰を伝承した当時の長崎浦上村の信者の再発見があり世界を驚かせた事実をみると、私達の先輩たちの信仰





長崎のボランティアの方々

の質の高さと、その深さを
感じないではおられませ
ん。

さて、日本における殉教
の歴史をみてきた私たちは、
最後にこれらの殉教者たち
が現在の私達に何を伝えた
のか、彼らの列福にはど
んなメッセージがあるのか、
一緒に考えてみましょう。

一、聖パウロはローマ人
への手紙の中で述べていま
す。

「誰がキリストの愛から
私たちを引き離すことがで
きましようか。」

艱難か、苦しみか、迫害
か、飢えか、裸か、危険か、
死か。然しこれらすべての
ことにおいて、私たちは、
私たちを愛してくださいと
方によって輝かしい勝利を

収めています。死も、命も
……

支配する者も私たちを主
キリスト・イエスによって
示された神の愛から引き離
すことはできないのです。」

日本の殉教者も聖パウロ
と同じことを叫び、神様の
恵みに信頼して信仰に生き
ることを怖れるなど叫び続
けています。

二、家族が全員一緒に殉
教したケースが多いと申し
あげましたが、家族は社会
を構成する最小の基本的共
同体であります。すべての
家庭がしっかりとしていれ
ば、社会もしっかりしたも
のになります。殉教した家
族は信仰、希望、愛で結ば
れ、共通の価値観を持ち、
何が起きても動ぜず、困難
に遭遇すれば互いに助けあ
い、励ましあっていました。
現代の社会では老若男女、
また生きる環境などの影響
を受け、健全な家庭、一つ
に結ばれた家庭を見出すの
は大変難しいとよく言われ
ます。まして死よりも強い
愛で結ばれた家庭は私たち
の鑑みであり、その家庭に
は生きる喜び、生きがい、



充足感が満ちております。
このような家庭をつくるよ
うにと殉教者は私たちに強
く呼びかけていることでし
ょう。そのためには殉教者
に倣い、家庭で皆そろって
神の言葉に親しみ、ともに
祈ることが必要でしょう。
三、キリシタン時代の信
徒は近辺の方々と暖かい交
わりを大切にしていまし
た。例えば米沢では殉教の
噂をきいた近隣の人がお上
の人、責任者を訪れ、キリ
シタンの立派な生活を話
し、迫害しないよう頼み込
んだことが頻繁にありまし
た。またお上も、それを充
分知っていて、捕獲、投獄
をせず、処刑の日になって
致し方なく、連行したこと

がありました。また近所に
住む処刑の役を命じられた
人が、処刑の前夜、キリシ
タンの家を訪れ、酒を飲み
交わし、赦しを願ったとい
う話もあります。使徒言行
録は初代教会について述べ
ています（二章四十二―四
十七）。「一同はひたすら使
徒たちの教えを守り、兄弟
的交わりを大切にし、パン
を手で裂き、祈りをしてい
た。信じる人たちは皆ひと
つとなり（すべてのものを
共有し、財産や持ち物を売
り、それぞれの必要に応じ
て、みんなでそれを分配し
ていた。）彼らはすべての
民に好意をもたれた。主は
救われる人々を信者の数に
加えてくださった」。

私たちの教会、信仰共同
体が神の愛の目に見えるし
るしとなるよう、殉教者は
強く訴えています。
四、殉教者は呼びかけて
います。毎年三万人以上の
自殺者が出る日本の社会に
呼びかけています。生きる
とはどうゆうことか、死ぬ
とはどうゆうことか、人間
は何のために生きるのか、
人生の目的、意義とは何

か、苦しみに意味があるの
かなどの人生の根本問題に
ついて深く考えるよう求め
ています。

信仰の自由を否定され、
殺された殉教者は叫んでい
ます。神の似姿に創られた
人間の尊厳性、また人間が
持つ固有の精神的な能力、考
え、判断し表現する自由な
どの重要性、それに反する
あらゆることを避けること
を強く訴えています。なか
でも人間の生きる権利が胎
児のときから死にいたるま
で大切にされること。武器
の製造、売買、それを使つ
ての殺人行為である戦争。
極度の貧富の差により非人
間的生活を余儀なくされて
いる者たちへの配慮など、
すべての人が大切にされ、
尊敬され、人間らしく生き
られる世界となるよう祈
り、活動することを求めて
いるに違いありません。
さあ、皆さん、怖れずに
歩み、一緒になって進みま
しょう、怖れるな、怖れる
なと神様がそして殉教者が
呼びかけています。皆さん
怖れるな。

【謝 辞】

今日は日本教会において

最高の喜びの日

列聖列福特別司教委員会委員長

高松教区司教 溝 部 修



尊敬するジョゼ・サライバ・マルティンス枢機卿様、このたび教皇様の特別のお計らいにより日本百八十八殉教者の列福式がこのように荘厳に執り行われたことを心から感謝申し上げます。今日は日本教会において最高の喜びの日であり感謝の日でもあります。日本教会の土台を築いてくださった信仰の先達への感謝でもあり、普遍教会と繋が

れてお祝いをする事ができたことに対しての感動でもあります。枢機卿様がロ

ーマにおかえりになれるときは非、この私どもの感謝、そして日本教会が今決意して

いる熱い思いを伝えてくだされば幸いです。一九八一年より始まってこの列福運動は二十七年の歳月を経ました。長いといえば長い、短いといえば短い歳月でした。この間ローマの列福聖省はとまどうばかりの私たち準備委員を常に励まし、

目に見える形で援助してくださいました。振り返って見ますと、わたしは枢機卿様とは計八回この件に関してお会いしていることになりました。今日で九回目です。その間、国務長官とは二回、二人の教皇さまヨハネ・パウロ二世とベネディクト十六世とはそれぞれ一回ずつ会っています。恥ず



三牧樺子作 187 殉教者の肖像画と 岐部トベト

会はずは世界の教会と繋がっているという事でした。この二十七年間の歩みの中でこの場をお借りして感謝申し上げたい方々がいまいます。最初にこれを発案なさった司教様方、その多くは現役を引いていますし、この世を去っています。特に最初からご尽力くださった白柳枢機卿様、平山司教様には

かしいほど無知であった私達を初歩の段階からどのようなプロセスを通してこの実現に向けるかを懇切丁寧に教えてくださいました。実現するよう励ましてくださったことが何よりもの大きな励みでした。この間実感したことは、日本教

この場をお借りして感謝申し上げます。きつと感無量のこととお察し申し上げます。歴史調査委員で資料の大半を提示し提出する文書の大半を書いてくださった故チースリク神父さま、そして七日前に亡くなり老いてなお列聖の情熱を失わずに働き続けてきた日本二十六聖人記念館前館長結城神父に格別のお礼を申し上げます。同時に法的なことなこともなさってくださいましたオーボンク神父さまにもお礼を申し上げます。どんな賛辞を述べ



ても足りない働きをしてくださいました。この三人なしに列福は実現しませんでした。今回の列福運動は日本教会の刷新と活性化を求めたところに特徴があります。四百年を経て共通の思い出を私たち信仰者は有しています。時代が変わってもその時代を生き抜く力と勇気を今を生きる私たちは先達から頂いています。その時代を生き抜いた昔の信仰者は現代を生きる私たちにメッセージを投げかけています。真摯にそれを受け止め毎日の生活に於いて実践して行くことを誓って私のお礼の言葉に変えさせて頂きます。

+ **これからが本番**
あかしびと

まだまだ先、と思つてい
た十一月二十四日がついに
やってきました。皆さんは
この日をどのように過ごさ
れたでしょうか？

わたしは前日の朝、広島
を出発して、鞆町教会の
方々のバスで佐世保付近ま
で一緒し、そこからJR
で長崎入りしました。約八
時間の旅です。

それから、四箇所で行わ
れていた前晩の祈りのうち、
大浦天主堂でのロザリオの
祈り、二十六聖人記念聖堂
での青年の祈りの集い、そ
して浦上教会での聖体礼拝
に行きました。時間切れで、
残念ながら城山教会には行
かれませんでした。街全体
に高揚感と祈りが満ちてい
ると感じました。街の角々
でなんと多くの、日本中の
友人や知人や親族、懐かし
い顔に出会ったことではし
ょう！この二日間は、三万人
の神の家族による大同窓会
の感がありました。

この数ヶ月「今なぜ殉
教？今なぜ列福？」という

問いが、心のどこかにあり
ました。でもこの二日間長
崎に身をおいて、共に祈
り、共に集い、共に喜び祝
つてみて、わたしなりに答
えを見つけたような気がし
ます。

「列福式」という「ご変
容の山」を降りるわたした
ちは、これからたくさんの
どうしようもない現実と向
き合うことでしょうか。そん
なとき、この列福式でいた
だいた恵みは、それでもな
お神がわたしたちと共にお
られること、そして、わた
したちこそがその事実を証
ししていくあかしびとであ
ることをわたしたちの心に
深く刻みつけ、わたしたち
に必要な力を注いでくださ
るに違いありません。

殉教者に想いをよせて

岡山鶴島 巡礼

(Sr.山本)

十月十三日、岡山で鶴島
巡礼が行われました。参加
者は前夜からの徒歩巡礼に
参加された十七名を合わせ



て約百三十名でした。

鶴島は岡山県備前市日生
町の遙か沖合、周囲二キロ
の小さな無人島です。一八
六九年にこの島に送られた
長崎・浦上村のキリシタン
は百十三名。厳しい地獄絵
図さながらの日々が続きま
した。

今回初めて鶴島巡礼に参
加して、岡山教会の方々の
鶴島を次の世代へ語り続け
ていこうという意志を強く
感じました。そして作家・
三俣俊二先生の講演会で
は、「英雄としてではなく、
そっと人知れず亡くなった
殉教者に想いをよせたい
！」という言葉がとても印
象的でした。

また、今回は十一月の列
福式へ向けて全国の青年の

間を回っている「あかしび
ロウソクとともにミサをさ
さげました。青年たちの殉
教者への想いも感じられる
巡礼でした。(門野 葉)



聖パウロ誕生(一〇〇〇年)
パウロゆかりの地
トルコをたずねて

小アジアと呼ばれ、パウ
ロによって設立された多く
の教会が存在した地、コン
スタンチヌス皇帝以来キリ
スト教の中心地として栄え
たこの地も、歴史のなかで
現在はその痕跡を見つける
にも苦労します。

パウロが創設し、今は廃
墟と化したイコニウム(現
コンヤ)、ヒエロポリス(現
パムッカレ)などの地に立
つてゆかりの聖書箇所を朗

読を聞いたとき、パウロの
宣教の情熱と苦労がよみが
えってきました。

公会議が開かれたエフェ
ソには、聖母マリア終焉地
の伝説があります。ここに
は、キリスト教信者のみな
らず、ユダヤ教徒もモスリ
ムも訪れるのだそうです。
広島にも宗教を超えて
平和を祈る人々が訪れる聖
母マリアのご像がほしいと
感じたのは、私だけではな
いでしょう。

今回の巡礼を企画され、
聖書の解説をしてくださ
り、現地のガイドさんも驚
くほどの博識をお持ちの原
田神父様に心から感謝申し
上げます。

(梶山 聰子)



淳心会助祭叙階式



十一月十五日(土) 倉敷

教会にて、三末篤實司教司式による助祭叙階式が行われた。助祭叙階のお恵みを受けたのは、淳心会のパトリック神学生(十二ページ)のひと粒に関連記事)とアンリ神学生の二人。淳心会と広島教区以外にも、大阪教区などから駆けつけてくださった方々約三百五十名と共に喜びを分かち合った。

パトリック助祭は、これまで倉敷地域共同宣教司牧チームで養成を受けていて、「たくさんの人たちとの出会いが、自分の人生をより豊かなものにしてくれ

た。」と喜びを述べていた。淳心会のエドガル管区長もお祝いの言葉の中でこれからも広島教区での働きを約束してくださり、感謝と希望の一日となった。

(服部神父)



パトリック助祭

教区で働く司祭の集い ―蒜山セミナーハウス―



セミナーハウスでの集合写真

今年度の広島教区で働く司祭の集いが、十月二十七日(月)〜三十日(木)、蒜山のセミナーハウスにて開催された。テーマは「パウロにおける協働」。今回は初の試みとして、二日目を降のプログラムに、各地区から二名ずつの信者と平和の使徒推進本部から祇山氏と山本が参加し、広島教区内で働く司祭と研修・交流を共にした。

二日目と三日目に、パウロ会の澤田豊成師をお迎えしての講話があった。「神が働かれ、わたしはそれに協力する。中心はあくまでも神。協働とは何かを成し遂げるための手段ではな

い。力を合わせ、交わりをはぐくんでいくこと自体が救いの神秘だ」とのメッセージが心に響いている。私たちが一人一人が、与えられている恵みの力を活かしながら福音宣教に邁進することができそうですよ!

(Sr.山本)

第四回備後地区四教会 合同信者養成講座

「福者よ、わたしたちは何をすればよいのですか?」古巣神父さまをお迎えして

十月十八日〜十九日に長崎教区から古巣馨神父様をお迎えして、第四回信者養成講座が尾道教会で開かれました。二日間で延べ二百八名の参加者がありました。

古巣神父さまのお話は一言ひと言がずっしりと心に響く重みがありました。神父さまのユーモアのある穏やかな話し方に時間の経つのも忘れて引き込まれました。六時間にわたるお話を

短い言葉でまとめることは至難の業です。

なぜ今四百年前の殉教者の列福式なのか?今の私たちとどう関わりがあるのか?それは神の約束の実現なのです。「母親が自分の産んだ子どもを慈しまないことがあるか?たとえ母親が産んだ子どもを忘れることがあったとしても、わたしはあなたを決して忘れない」という神の私たちにへの約束の実現なのです。「教会はあなたのことを決して忘れない。あなたの流した涙、あなたの流した血を決して忘れない」

百八十八名の殉教者たちの話は過去の話ではないのです。今の閉塞した教会に投ずる希望なのです。「殉教者の流した血は教会の種となる」と四百年前にも言われました。殉教者たちは希望を持って命を捧げました。彼らは私たちの進んでいく道の希望なのです。私たちはこの列福式に立ち会う目撃者なのです。歴史の節目にいます。列福式で終わりではない、始まりなのです。(丹藤 東亜子)

**2008年度
第2回広島司教区
宣教司牧評議会
開かれる**

二〇〇九年教区年間テーマ

「平和の使徒となろう」
と「和解をもたらず」

「新しい人」に

二〇〇八年十二月十四日の広島司教区宣教司牧評議会、二〇〇九年の教区年間テーマ、サブテーマが話し合われ、「平和の使徒となろう」(「和解をもたらず」「新しい人」)にが決定された。

二〇〇八年は、十一月二十四日に長崎で行われた「ペトロ岐部と百八十七殉



教者列福式」に向け、広島教区民一人ひとりがキリストの証し人として、「今、何をすべきか」と問われた一年であった。

その流れを受けて二〇〇九年は、パウロ年と福者誕生の恵みを感じる心を具体的に表現する年として副題(サブテーマ)が掲げられた。

①教区年間活動計画の提案

二〇〇九年

二月十一日(水・祝)

広島教区「列福感謝ミサ」

広島教区に五人の新しい福者が誕生したことを感謝する日として、当日は、十時から巡礼が行われる。己斐の殉教碑からスタートし、観音町教会、平和記念公園、広島城を経由し、世界平和記念聖堂までを巡礼する。

十三時からは、世界平和記念聖堂でこれまでの教区内での取り組みの発表とミサが予定されている。

当日、参列できない場合は、当日の同時刻か、また、二月九日(日)小教区のミサの中で、感謝の意向を盛

り込むこととする。

②平和の使徒推進本部事務

局からの報告

「平和の使徒推進本部」その後の歩み」と題したプレゼンテーションを行い、二〇〇六年からスタートした推進本部の二年間の取り組みと成果について報告された。



③平和推進チーム、養成推

進チーム、きょうどう推進チーム、在住外国人共生推進チーム、それぞれ

の活動報告と今後の取り組み提案
平和推進チームは、二〇〇八年九月二十一日に教区平和推進チームが正式に発

足し、「平和を創る人々の集い」「八月平和行事」について推進することの報告があり、今後については、平和行事の充実と憲法九条に関する集いの取り組みについて提案された。

養成推進チームは、「みことばの分かち合い」出前研修の実施、集会司式者・聖体奉仕者の養成についての報告があり、今後については、「平和の使徒となるためのカテキズム」作成や世代別養成についての予定が報告された。

きょうどう推進チームは、「きょうどう」に関するアンケートの実施と分析、きょうどうの实りについて報告があり、具体的な提案として、二〇一〇年に「合同地区宣教司牧評議会(仮称)」を実施するため、二〇〇九年はその準備の年として取り組んでいきたいとの提案が出された。

在住外国人共生推進チームは、J・I・C・A・R・M(日本難民移住移動者委員会)広島を主軸とし、フィリピングループ・ブラジルグループの活動、司牧・教育・文

化面における活動の報告があった。

以上のことを中心に、話し合いがなされた。

「列福」「キリストの証し人」「和解」「新しい人」「パウロ年」が私たち教区民一人ひとりの心に留まり、真剣に祈り考え、「新しい福者の誕生」で受けた感謝と喜びのうちに「平和の使徒」としてのきっかけを具体的に実践していく一年になることが込められた教区テーマである。

文責 平和の使徒推進本部



姉妹教区インファンタ よりの訪問者

荻 喜代治神父

十一月十二日～二十日インファンタ教区のナカル・カルメルハイスクールより、男女一名ずつの高校生と校長シスター・バンジーが広島教区を訪問された。

五週間毎年、夏休みの一週間、広島教区よりインファンタ教区へ体験学習・ホームステイに伺いすばらしい体験を重ねて来た。

今回は、そのお礼にと数人から寄付が寄せられ、三名を招待することができた。

高校生たちは一名ずつに分かれ、岡山・広島ではホームステイを行ない、広島学院、清心中・高等学校（倉敷）、尾道・岡山・幟町教会、司教様を訪問し、広島、平和公園、岡山市内、京都、大阪の見学もでき、京都では青年たちの歓迎も受けた。シスター・バンジーは帰国前日、感謝の手紙を残してくださいました。「私たち三名は、広島教区の招待により温かい歓迎を受けました。五週間広島よりイン

ファンタに若者の交流が行なわれて今回初めて、インファンタから訪問することができました。私たちはカルメルスクールへの広島教区からの絶えざる援助についても感謝しています。」と。

できることなら、来年もインファンタより学生を招待できたらと、さっそく準備を始めて下さっている方もいます。すばらしい実り大きな交流行事に、皆さんの温かいご理解、ご協力をお願い致します。



右、高校生、前列右、シスター

地区便り

山口・島根地区

《集会所司者と聖体奉仕者の集い》

一月二十四日（土）に、

山口で年一回の奉仕者の集いを開催する。

《信者養成研修会》

二月十四日（土）～十五日（日）、福岡黙想の家で十一期生修了研修会を実施。

《教区養成出前研修会》

今年度第二回の出前研修会を三月八日（日）に、出雲教会で実施。

《サンデーゴスペルの放送》

一九九六年四月からはじまった福音書のメッセージを伝えるサンデーゴスペル（山口放送ラジオ毎週日曜日、午前七時四十五分～八時放送）。今では神父・修道者だけでなく信徒もゲストスピーカーになっていきます。一月榎谷さん（細江・JICARM）、二月田丸神父（山口）、三月宮崎さん（徳山・カ障連）。山口県内をはじめ、島根県や九州の一部にも電波が届いているようです。日曜日早朝山口県内を車で通過する方は、カーラジオのスイッチをONに。



海峡からの風 13

下関労働教育センター日より

●前号で、下関市教育長が「朝鮮半島の植民地支配は歴史的事実に反する」という妄言について書いたら、今度は国防の中核にいる田母神空幕長が「日本は侵略国家であったのか」という懸賞論文を書いて更迭された。●政府見解に真つ向から反論するこの「言論クーデター」について、自由主義史観を支持する側は彼を擁護し、賛否別れて議論された。問題は二点で、一、言論の自由について。二、歴史観についてだ。●歴史観については、多くの歴史学者がそのデータラメさを指摘し、文献を引用された近現代史の秦郁彦氏は「論文は子引き・孫引きのつぎはぎで、事実誤認だらけだ。」と不快感を露わにしている。●軍人の言論の自由については、五百旗頭防衛大が新閣で「民主主義国にあって、軍人は国民によって選ばれた政府の判断に従って行動することが求められている。これがシビリアンコントロール（文民統制）である。」と釘を刺し、興味深いことを書いていた。「防大資料館内に『服従の誇り』という不思議な言葉がある。通常、服従は奴隷的であり、屈辱的である。個性の確立と自主自立こそが誇りであろう。国民と政府への自衛官の『服従』が、自発性に基づく積極的なものであり、それが国と国民に献身せんとする大義に発するものであるならば、立派に『誇り』たり得ることを説いたのである。シビリアンコントロールを外力への服従としてではなく、自らの信条として内面化するのである。」（抜粋）●五・一五事件や二・二六事件などの軍事クーデター。後に軍国主義に大きく舵を切ったこの国は紛れもない侵略国家であった。●田母神氏が更迭されたとは言え、このような人物を支持する土壌が醸成されている現実には怖い。

（細江教会・廣崎隆二）

広島地区

《「平和」・「きょうごつ」・「養成」三推進チーム発足、アレルヤー!》

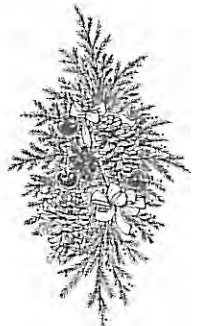
広島地区に所属するわたしたち小教区民は、これまで「地区」をさほど意識しないまま歩んできました。しかし今年度に入り後藤神父が地区長になり、状況は日増しに変化しています。

○六年、広島教区宣教司牧の基本方針として立てられた「平和」「きょうごつ」「養成」の三本柱の取り組みを広島地区でも具体化し始めました。この方針に沿って、推進チームが次々と誕生し、具体的な活動計画を立案し始めています。

例えば、教会の未来を担う子どもたちを核にした、地区全体を巻き込んだイベント（たとえば夏季キャンプや合同侍者会）の充実、平和アピール81記念平和行事のプログラムの中での高等学校演劇部による原爆劇の上演などの企画が具体化しつつあります。

また、備後四教会（三原、尾道、福山、笠岡）は殉教

者に学ぶ研修会や活動を通じて、協働の輪を広げ信仰を深めています。
(井上康生、広島地区宣教司 牧評議会事務局、祇園教会)



JICARM広島便り ユニティ岡山の広がり

共同代表 長安めぐみ

岡山鳥取地区JICARMカトリック難民移住移動者委員会は二〇〇七年から「ユニティ岡山」の通称で新たに活動を始めました。ユニティとは仲間という意味です。教会に集う「地球人の仲間」として、豊かに出会い共に支え合うために何から始めるか、その問いに神様はたくさんの方の活動のヒントをくださいました。

①「出会う」日本に来たばかりの方と見ることが出来るローマ字表示の教会案内の作製。②「集まる」ユニティの集いの充実（母国語のお祈りや料理教室をオープンな形で開催）、日本

語教室の支援。③「交わる」メンバーによる韓国語講座の開催、英語のバイブルクラスや英語ミサ後の茶道体験を計画。④「支える」支援共生窓口としての課題（制度や人権問題に関わること）をテーマに交流学習会の実施。⑤「深める」外国人当事者のメンバーと共有できる「ユニティのめざすもの」(規約)を今年度内に協議作成。
これらの活動はすべてメンバーの小さな声から広がっていきましました。まずは当事者に耳を傾けること。そしてやれることから無理なく楽しく始めてみることに。そして長く続けていくこと。「地球人の仲間」として私たちに何が出来るのか。教会共同体として「見えな い壁」を取り除き、当事者のいのちと人権を守るための活動を模索しています。

広島教区の施設 ② 山口鳥根地区事務局

サビエル記念聖堂が一九九八年四月に再建された前年、イエズス会山口修道院内を改装し、それまで、修道院の中にあつた事務室とロレンソ図書室を分離、修道院横に地区事務局の建物が新設されました。これによって、修道生活と仕事との独立性が保たれるようになりました。

現在、地区事務局では、毎日の修道院と地区事務局受付業務に、広島司教区山口支部（十七の小教区、二巡回教会）とイエズス会山口本部・支部（小教区等に派遣されている会員）の会計や職員関係事務、事務局二階会議室で行われる司祭評議会やその他の会議のお世話、教区やイエズス会から送られてくる印刷物の発送、宣教司牧評議会や信徒使徒職協議会、少年の集いの案内や議事録等発送、毎月発行する「福音のしおり」や三ヶ月に一回配布する「サンデーゴスペル」チラシの校正発

送など、様々な仕事があります。
佐々木地区長のもと、フルタイム職員一名、主に図書の整理をするパート職員が週一日半働いています。
一階にある「ロレンソ図書室」には、教会関係の様々な本があり、キリシタン研究をされる方が借りに来られることもあります。図書室のことをご存じない信徒も多いようですが、聖書研究の予習復習にもどうぞご利用ください。
事務局受付は平日の九時～十七時です。フルタイム職員一名なので、事務局内を上にな下に、また外へと動き回っていますが、ダイエツト効果（？）はないようです。

(職員 堂本記)



右側・修道院、左側・事務局

青少年の活動

ネットワークミーティング広島

『始 動』

「ネットワークミーティング(NWM)」とは、毎年二月と九月に全国の青年が交流する場のことです。二〇〇九年九月に岡山県岡谷学校での開催が決定し、

その実行委員会が十一月二日発足しました。テーマ作りや役割分担など、全国の青年交流を盛り上げるためのプログラムを現在スタッフで検討しています。

NWMには信者・未信者問わず、信仰や教会や人生について語りたい人、人との関わりを増やしたい人など、様々な目的を持って、全国から多くの青年が集まっています。是非ご参加下さい。

三末司教杯ソフトボール大会

また、実行委員会ではスタッフを募集しています。一緒にやってみませんか？
NWM広島実行委員長
岡山教会 西川基之
問合せ：青少年情報センター

十一月三日、福山・芦田川河川敷でソフトボール大会が行われました。今年はいくさんの参加があり、職

町、翠町・広島青年合同、三篠、呉、福山、岡山、高松から計八チーム、約百三十人が集まりました。また、高松教区やフィリピンの方のチームがあつたことは、本当に良かったと思います。優勝は翠町・広島青年合同チームでした。

ソフトボールを通して、他の教会の方々と交流でき、とても素晴らしい一日になりました。試合に出て



『新しい旅路へ』

倉敷プロック

パトリック・カストロヴェルデ助祭

神父を目指してフィリピンから参りました淳心会のパトリックです。倉敷教会へ派遣され、あつという間に一年が過ぎました。広島教区の一員になり、皆様の温かい歓迎にとっても感激しています。皆様との関わり

の中で、神様と皆様のために最善を尽くし、努力しなければならぬという決意が私の心に刻まれました。

この一年間、練成会、中プロ、司祭の集まり、信徒の交わりなど、様々な行事に参加させていただき、国際的な出会い、感動的な場面、そして色々な方々と知り合い、将来役に立つ経験が生まれました。二年間、大

阪で日本語を勉強しましたが、やはり教室の四つの隅から得た知識よりも、広場という現場から沢山のことを学ぶことが出来るのだとつくづく思いました。確かに「体験は最高の先生である」と。

人は、今までの体験や目が覚めるように気付かされたことを通して、花が咲くように成長しているのです。花が咲くまでには十分な養分が必要です。私の人生もそうです。自分が完全に成熟した者になるためには、経験、共に歩む相手、人間関係、失敗や成功、試練などが重要なものではな

いかと。そして、楽しく生きるために、神様からの愛、恵み、力と絶えまない祈りは一番大切だと思います。

最近、私の人生に神様がくださった大きな恵みは助祭叙階です。十一月十五日、私は助祭叙階されました。今まで、応援し支え、祈り、また叙階式に参列してくださった大勢の皆様に心から感謝いたします。これから私の人生は助祭、宣教師としての新しい局面、旅路に入ることにあります。これからもよろしくお願いたします。神様に感謝。

くださった方々、応援に駆けつけてくださった方々、本当にありがとうございます。来年も、皆さん、ぜひ参加してください。

『お知らせ』

中国プロックカトリック高校生大会

今回のテーマは「幸せ、愛(隣人愛)、出会い、個性」。皆さん是非ご参加ください。
日時：二〇〇九年

三月二十七日～三十日
会場：広島学院
対象：中学三年～高校三年
問合せ：青少年情報センター



降誕祭、今年も神の御子がこの世界にお生まれになる。二千年前、そして現代、その方は何を見、何を聞き、何を感じられるのだろうか？ それを受けて、何を語り、どんな行動をとられるのだろうか？ み言葉を通してじっくりそれを味わい、私の行動としていきたい。(き)



<60>